

令和元年8月14日付【日本下水道新聞】

各種マニュアル解説
＜雨水管理と災害支援＞

雨水管理と災害支援

水コン協 各種マニュアル解説

全国上下水道コンサル

タント協会は7日、下水道展19横浜の併催企画として「全国上下水道コンサルタント協会における防災・減災・安全への取り組み」をパシフィコ横浜会議センターで開催。水コン協の策定した「下水道雨水管理総合計画策定マニュアル」および「災害時支援マニュアル（下水道版）」について、担当者がポイントを中心に

解説した。

古屋敷直文雨水管理総合計画策定マニュアル（仮称）WG長は、「下水道雨水管理総合計画策定マニュアル」について講演。対策目標（公助・自助によるハード対策およびソフト対策の目標降雨）の検討について、▽生命の保護▽都市機能の確保▽個人財産の保護――の三つの主目的を果たすためには、「人（受け

手）」の視点での目標設定が重要とした。その上で、「床下浸水など許容すべき基準を設定するとともに、ハード整備とソフト対応の分担を明確にするべき」と指摘した。

山本整災害時支援者育成小委員会委員長は、災害時復旧事業の一連のフローなどを平成28年熊本地震における災害復旧支援の経験を踏まえながら講演。「大規模災害発生時には、被災後2カ月以内に災害査定図書を作成する必要がある。短期間での図書作成には下水道台帳システムの活用が不可欠だ」と説明し、台帳システムの整備・構築（汎用GISデータ化）と、情報の正確さが重要だと強調した。



古屋敷氏



山本氏